

# 伊藤 ゆきひろの ちょこっとタイム



後援会便り <No.90号> 2018年 8月1日 発行

## ごあいさつ

カンカン照りのお陽様に、怯むことなく対峙するひまわりの潔さが見事です。

今夏日本列島は広く高気圧に覆われ40度を超す最高気温を記録するなど酷暑に見舞われる一方、激甚災害となった西日本豪雨や異例のコースを辿った逆走台風12号は記憶に新しく、被災者の皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

北半球でも記録的な熱波が猛威を奮い、熱中症のみならず山火事や干ばつを引き起こしており、温暖化による地球規模の異変が危惧されます。

さて先月17日、世界最大級自由貿易圏を目指す日欧経済連携協定（EPA）が署名され、中国でも7月からの自動車関税の引き下げや外貨規制の緩和が進められており、保護主義を強める米国への対抗姿勢となりますが、日本経済だけでなく、家計に嬉しいワインやチョコが楽しみです。

ところで、総務省発表による今年1月1日時点の人口動態調査では過去最大の37万人減少となりましたが当市では年々増加しており、今後も更に住みやすく子育てしやすいまちづくりを目指します。



刈谷市議会議員

### 【後援会事務所】

刈谷市一里山町金山100番地  
(トヨタ車体労働組合内)

Tel 0566-36-3870

Fax 0566-36-6272

E-mail itou@bwcom.or.jp

HPアドレス <http://y110jimdo.com>



## 歳時記

8月 1日 (水) 土用二の丑

7日 (火) 立秋

11日 (土・祝) 山の日

15日 (水) お盆・終戦記念日

23日 (木) 処暑

24日 (金) 地蔵盆 (23日～)

お盆が近づく頃には、木の下闇や片陰りを探して歩く歩道にも、朝夕の風にふと新しい季節の気配を感じたりします。楽しい時間はあっという間ですが、先ず課題を済ませてしまえば更に心軽々と、充実した休暇を過ごせます。

# 伊藤ゆきひろの ちょこっと情報 !!



## 刈谷 良いトコ ♪



市の東部を流れる川の水は澄み、両岸に青々と茂る夏草の緑が目に鮮やかな風下がり。自然のビオトープは、亀や川辺の生き物を育てています。さて、ここはどこでしょう？



7/1発行の<No.89>の答えは、御幸町の元刈谷市民館前の倉庫を利用して、月に3度開かれる地産地消の朝市でした。顔なじみのお客様との会話も楽しい、朝のひとときです。

## “芸術の守人”への招待☆

8月15日は終戦記念日です。戦後世代が殆どとなった今では、その記憶を留め伝えて行くことが重要です。映画では、凄惨な“戦場のピアニスト”や、繊細な“フランス組曲”など、様々な角度から映像化されていますが、世界の至宝とも言うべき美術品を、命を懸けて守り抜いた名も無き人々のドラマもありました。

ナチスを率いるヒトラーはナチス版フィレンツェを夢見て、美術館建設を目論み、併合・侵略した国々の美術館・博物館やユダヤ人の収集家から、実に65万点もの美術品を略奪しました。美術品の押収は数百人の専門部隊から成り、略奪品はヒトラーとナンバー2のゲーリングに報告、写真を見ては満悦していました。

ヒトラーの美意識に合わず、退廃的と烙印を押された美術品5千点が焼却処分となり、シュールレアリズムの巨匠、ピカソ・ダリ・クレー等が抹殺されました。

青少年期、芸術家を目指してウィーンにある美術学校に通い、大学進学に失敗したヒトラーは、芸術を見返す機会を虎視眈々と窺いながら、芸術に対する病的で歪んだ愛情を、彼の野望が崩れ去る直前まで諦める事はなかったといえます。

これに敢然と立ち向かった人々の実話を、2回にわたりご紹介しましょう。

## 8月の行事予定

8月10日 (金) 臨時議会

11日 (土)・12日 (日) 元刈谷盆踊り大会

17日 (金)・18日 (土) 刈谷わんさか祭り

20日 (月) 9月定例議会説明会

“まじめに  
コツコツ、即行動”  
頑張ります!!



# 7月のフットワーク

## ユタカ議員協議会の研修会報告

〔日 時〕 7月16日(月) 10:00~12:00  
 〔場 所〕 キャスルプラザ名古屋  
 〔テーマ〕 ①愛知県における高齢者の就業・就労について  
 (講師) 愛知県就業促進課 岩井 秀憲氏  
 ②「あいち技能伝承バンク」について  
 (講師) 愛知県産業人材育成課 日高 啓視氏



少子高齢化社会において、高齢者の生活の充実と社会への貢献は、人出不足の企業にとっても有意義な取り組みです。シルバー人材センターの事業拡大と高技能を有した熟練者の技能伝承は重要な課題であり、今後の自治体事業に生かすことができる政策。

- ① シルバー人材センターの業務拡大…就業時間拡大の特例措置施行(2017年4月施行) 派遣・職業紹介に限り、週40時間まで就業が可能となる。  
 但し、厚労省が定める基準に適合し、市町村が業種・職種を指定すること
- ② 「あいち技能伝承バンク」の創設(2018年7月3日発足)…次世代のモノづくりを支える人材を育成するため、企業OB等の熟練技能者を圏内の中小企業や学校等で実技指導を行う講師を認定・登録する制度。(県費で派遣し、派遣先が謝金を支払う)

## 2019年度当初予算編成に関する市民クラブ会派の要望を提出



住みたい、住み続けたいまちに  
 人口増加に繋がる施策を要望!!

重点要望 3項目 38件  
 その他 個別要望 30件  
 (計 68件を要望)

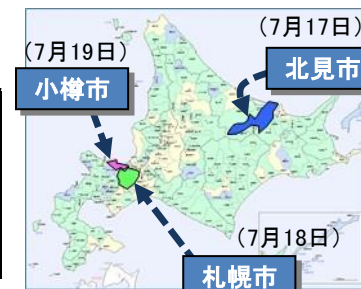


7月23日(月)  
 市長に要望書を提出

重点要望項目	要望件数
<b>(1) すべての産業の持続的成長を促す施策</b>	
① 企業誘致、投資促進、人材育成など企業体質強化への応援施策の推進	2
② 近隣市を巻き込んだ効率的な生産活動ができる道路整備の推進	4
③ 革新的な新事業への展開	2
<b>(2) 刈谷の資源を有効活用したまちの魅力づくり施策</b>	
① 人とエリア、エリアとエリアを有機的に結合させる施策の推進	4
② 若者が集まり、住みたくなる街づくり施策の推進	7
③ 刈谷の資源が有効に発信されるPR戦略の強化	1
<b>(3) 全世代が安心して暮らせる環境づくり施策</b>	
① 産・学・官の力を活かした防災、防犯、交通安全への施策の推進	9
② 少子高齢化課題の明確化と計画的な対策の推進	7
③ 障がいを持つ市民が暮らしやすいしくみの確立	2
<b>その他 個別要望</b>	
都市環境分野(14件) 教育文化分野(2件)	
産業振興分野(2件) 福祉安全分野(9件) 計画推進分野(3件)	

## 市民クラブ会派の行政視察報告

日 程	視察先	視察テーマ
7月17日	北海道北見市	・スポーツ合宿事業 ・公設のスポーツ施設見学
7月18日	〃 札幌市	・救急安心センター事業 ・省エネルギービジネス創出事業
7月19日	〃 小樽市	・観光イノベーション事業



〔視察参加者〕 市民クラブ会派議員(6名)

鈴木 浩二(会長) 山内 智彦(事務長) 黒川 智明 中嶋 祥元 佐原 充恭 伊藤 幸弘

### 北見市の『スポーツ合宿事業』について

北見市では、各種スポーツ施設の整備と選手の合宿受入れ体制に力を入れた事業が行われ、毎年全国から多くのアスリートが合宿に訪れ、地域経済の活性化や市民スポーツの振興に貢献している。また北見市のカーリングチーム、L S北見は2018年のピョンチャン五輪で銅メダルを獲得し、スポーツ合宿事業の成果ともされている。

#### 〔刈谷市が参考にすべき事業内容〕

- ・スポーツ合宿実行委員会には旅館組合も加わり、地域全体で推進する体制。
- ・事業費に対し経済波及を入れた費用対効果を明確にしながらい推進する行政体質。

〔所感〕 刈谷市は12ものホームタウンパートナーを有し全国に誇れるまち。その特性を活かし、チーム企業と連携を図りながら環境整備や支援のあり方等を再考し、市民スポーツの活性化に積極的な取り組みをすべきと感じた。

### 札幌市の『省エネルギービジネス創出事業』について

CO2削減と市内中小企業のエネルギーコスト削減による経営基盤強化を目的に、官民で徹底した省エネ改善の調査と改善サービスのビジネス化に取り組んでいる。省エネ総合窓口事業者は補助金を受け、省エネサービスの提供を行う事業所と協働で顧客にエネルギーコスト削減の提案・施工を行い、利益を得る仕組み。

#### 〔刈谷市が参考にすべき事業内容〕

- ・CO2削減と中小企業の収益改善に繋がる仕組みの事業であり、導入を研究すべき。
- ・事業者が持つ技術力を新たなビジネスに繋げる支援事業の強化は重要。

〔所感〕 行政が省エネを切り口に、事業者に新たなスキームとビジネスチャンスを提供し、中小企業経営の一助を果たす姿勢は見習うべきと感じた。

### 小樽市の『観光イノベーション事業』について

小樽市は日本を代表する観光地だが、観光地間競争が激化する中、外国人旅行者の増加や観光客ニーズの多様化などに対応しようと、小樽版DMO設立に向け官民が一体となって積極的な取り組みにチャレンジしている。

#### 〔刈谷市が参考にすべき事業内容〕

- ・民間組織の「小樽観光大学校」を設立。誰もが小樽観光の資格を取得できる受験制度。
- ・小学校5・6年生を対象としたジュニアガイド育成プログラムの取組み。
- ・多言語ガイドマップや外国人受け入れのセミナー開催。等

〔所感〕 除雪に10億円/年の経費確保に行政も必至。観光資源が豊富でありながら、止まることなくオール小樽で観光事業に取り組んでいる事とが良く伝わった。